

牧場で婚活いかが

酪農体験＋観光女性参加募る

出合いの場「気軽に」

「牧場で「婚活」」。独身男女が結婚相手を探す婚活がブームになる中、県内の男性酪農家たちが都内のイベント会社と組んで全国でも珍しい「酪農婚活」を今月末に開催する。酪農体験に加え観光も楽しめる日程で、「女性に気軽に参加してもらいたい」と主催者は話す。(丹治翔)

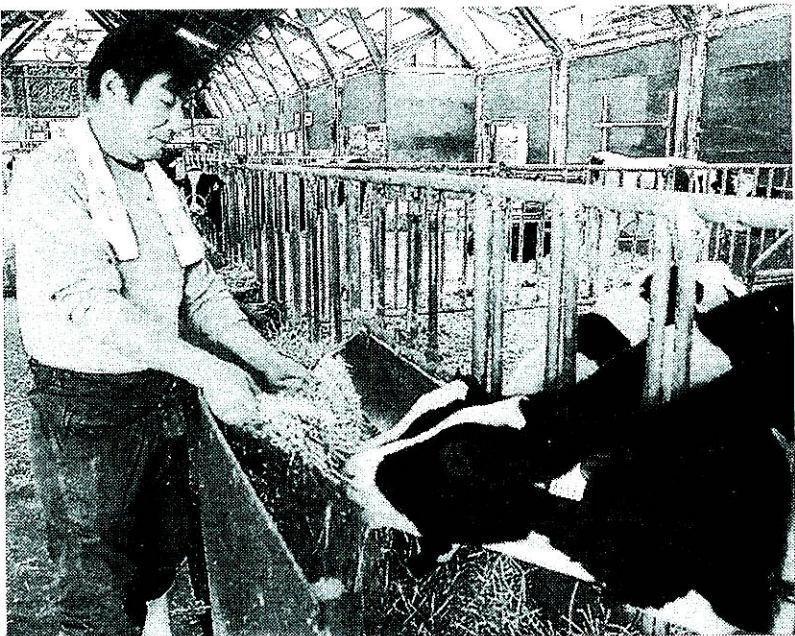
男性陣は県内全域から22～47歳の酪農家15人が参加する。31日から1泊2日のツアーを組み、初日は郡山石筵ふれあい牧場(郡山市熱海町)で、男女10人ずつのグループになり、牛の乳搾りや餌やりなどを体験する。猪苗代町のホテルリスデル猪苗代に宿泊

し、翌日は同町にある世界のガラス館や会津若松市の鶴ヶ城公園などを見学。日程の最後には、参加者同士が連絡先を交換できる機会がある。

県酪農協同組合(酪農協)など県内の酪農3団体の青年部約280人からなる県酪農青年研究連盟(酪青連)が企画した。酪農業界は後継者難で、2年ほど前に酪農協の青年部が婚活の希望者を調べたところ、会員175人中約40人が手を挙げたという。

「女性との出合いの場を作れないか考えていた」と酪青連事務局の松岡陽慈さん(40)。構想を練り、婚活応援サイトを運営する「トゥー・リングス」(東京都)とのタイアップが決まった。同社は、農業ベンチャーと共同で「畑DE婚活」と題したイベントを手がけてきた。

「男性陣はいい人はかりだから」と郡山石筵ふれあい牧場の柳沼喜久吉さん(42)。当日はスタッフとして手伝う。郡山市熱海町



旬・に・聞・く

タレントの薬物事件が後を絶たないが、県内でも8月末までの検挙は覚せい剤が105件で昨年同期より2割多く、大麻は16件と倍増した。2月の覚せい剤密輸事件での押収量約1kgは、統計を始めた1980年以降最多だ。なぜ薬物事件が今、増えているのか。県警組織犯罪対策課長、鈴木さんに聞いた。

県警本部組織犯罪対策課長

鈴木 富男さん(58)

(古庄暢)

ネット取引 罪悪感薄める

「なぜ薬物事件が増えている。せるとか甘い言葉に誘われて手を出す人もいますが、興味本位で、単になっただけのこと。以前は暴力

現職(民主)

農作業などを一緒に体験することで距離が縮まり、お見合いパーティーよりもカップルができる率が高いという。同社は「牧場なので着飾ることもなく素の表情が出せる。酪農は初めてだが、結婚に至るようなパートナーに出会ってほしい」と。

参加条件は25～44歳程度の独身で結婚願望のある女性。学歴、年収は不問で、定員(15人)になり次第終了。男性の募集は既に終了している。料金は2万3千円。申し込み、問い合わせは農協観光首都圏支店のグリーンツアーズム事業課(03・66665・0002、土・日・祝日は除く)かトゥー・リングス(<http://www.tworings.co.jp/farmings/index.php>)へ。

渡部 前衆院議員が引



渡部篤・前衆院議員

長を辞任馬しない。渡部氏は、及ばず、を奪還するに党員に「した」と。渡部氏期、衆議院選で4例東北で目を指(民主)

大麻は一掃

「どういった罪が多いのですか」「内訳で見るとが多いです。覚せい剤6万円と非常に密売目的にされるが、大麻は白なので、売買よりはりやすく、検挙人数がほとんどです

2009.10.4 朝日新聞